

(社) 日本原子力学会
第 100 回倫理委員会議事要旨

日 時 平成 29 年 11 月 10 日 (金) 14:00~17:30、20:00~23:45
平成 29 年 11 月 11 日 (土) 9:00~12:00、12:35~14:15
場 所 山房 月之瀬 (福島県福島市 穴原温泉)
出席者 大場委員長※、三村副委員長、神谷委員、中野委員、中村委員、出町委員※
伊藤委員※、北村オブザーバー
※ ; 部分出席

配布資料

資料 100-1 : 第 99 回倫理委員会議事要旨(案)
資料 100-2 : 2018 年春の年会企画セッション関連資料
資料 100-3 : 2017 年度倫理研究会関連資料
資料 100-4-1 : 電気学会倫理委員会関係行事について
資料 100-4-2 : 他学会倫理委員会関係行事について
資料 100-5 : 2018 年秋の大会企画セッション関連資料
資料 100-6 : 倫理規程見直しに関する資料
資料 100-7 : 電気学会 第 10 回技術者倫理研修会に関する資料(議事概要)※
資料 100-8 : 欠番
資料 100-9 : 最近の不正問題について(フリーディスカッション用メモ)

議事

- 資料 100-1 により前回議事要旨(案)が了承された。
- 資料 100-2 により 2018 年春の年会企画セッションの方針、準備状況を確認した。
 - 「災害に備えるために必要となる原子力関係者の倫理～再稼働の現場、大学研究炉の現場の声から考える～」というテーマで、講演者として関西電力殿ご了解、近畿大学殿内諾を頂き、京都大学中島先生に神谷委員から依頼中。
 - 企画セッション提案書は 11 月末が提出期限であり、神谷委員から内容案が提案され了承された。今回も原子力関係者の倫理を考える上で一般の方のご意見を頂くことが重要との視点で無料公開セッションを提案する。
 - ご講演の内容はハード的な安全対策ではなく、現場の安全文化醸成活動(要員のモチベーション向上等)や地域住民との具体的なコミュニケーション事例をお願いすることとし、特に大学関係はご講演者と事前に摺合せを行う事も考慮する。
 - セッション日程は最終日を避け、3 月 26 日か 27 日で調整する。
- 資料 100-3 により 2017 年度倫理研究会の計画について議論を行った。主な議論は以下のとおりで、準備を進めていくこととした。(2 日目審議)
 - 再稼働を果たし、安全性向上評価書の届出もしている九州電力殿にお願いする。
 - 2017 年秋の大会企画セッションのフォローアップとしての研究会であり、秋の大会から更に深

掘りした議論ができることよい。例えば、トップのメッセージが現場にどのように伝わっているか、安全文化の醸成のためにどのぐらいの労力、予算を掛けているのかなども共有できると有意義。

(3)講演事業者は2社程度に絞って、じっくりと話をさせていただく。

(4)資料に記載のある「目的」は、本日の議論を踏まえて見直しを行う。

(5)研究会の場所は、東大を候補として検討する。

日程は、2月19日(月)午後を第1候補、2月13日(火)午後を第2候補とする。

4. 資料100-4-1及び100-4-2の電気学会、他学会の倫理委員会関係行事を元に企画セッションと研究会の中長期運営など、本委員会の活性化に関して議論を行った。主な議論は以下のとおりで、これらを踏まえ、検討を進めていくこととした。(1、2日目審議)

(1)当委員会の活動全容として、春と秋の学会年会/大会時の委員会セッション(電気学会の全国大会シンポジウムにあたる)、研究会は2回/年とし1回は委員会セッションのフォローアップ、1回は倫理規程の浸透のためのWS等を実施。また倫理委員会での議論を効率化して早めに切り上げ、2回に1回の頻度でミニ講演会(仮称)を実施する方向とする。

(2)電気学会倫理委員会の活動を参考に、本委員会傘下に教育WGを設置して、学会大会時の委員会セッションのフォローアップ研究会を担当してもらい、などの案について議論を行った。教育WGメンバーとして特別委員をお願いして大学関係者に入って頂く、委員会とのつながりも必要であり、メンバー増強も併せて、教育WGメンバーを検討する。

(3)ミニ講演会(仮称)は、委員会外の講師のみならず各委員が順番に自らの業務に関連することなどを話題提供することで本委員会の活動において、委員間の共通認識の幅を広げることにつながる。また、特別委員にも話題提供(講演)をお願いする。委員会では13:00から15:30まで議題の議論を実施し、休憩の後の15:45~17:15の時間を講演に充てる。

(4)本委員会でどのようなテーマを取り上げていくことがよいのか、の議論を行い、コミュニケーションの観点では重要なので、例えばリスクコミュニケーションの専門家を招いて議論を深めていくことが必要ではないかとの意見が出された。また、テーマの設定の際には、本委員会のミッションとの関連を的確に意識して、倫理規程の改定に役立てるなど、委員の単なる勉強に終わることのないようにする必要があるとの意見があった。

5. 資料100-5により2018年秋の大会委員会セッションの内容について議論を行った。主な議論は以下のとおりで、引き続き、検討を進めていくこととした。(2日目審議)

(1)テーマとして以下の3案が出され、JAEA殿内で検討頂くこととした。

①JAEA殿に特化した安全文化醸成活動とすると対象範囲が広く纏まらない可能性もあるため、研究機関の安全文化醸成と言う切り口で実施する。

②JAEA殿は日本の原子力界にとっては、大きくかつ重要な存在である。規制に対する支援機関でもある。JAEA殿の取組みを取り上げて議論することは意義がある。

③事例を絞った上での話題提供の方がJAEA殿としてもやり易いのではないか。その観点で、大洗被ばく事故を取り挙げる。

6. 資料100-6により倫理規程改定案に対する1件のパブコメへの対応方針について議論した。A3で倫理カードを作成する御提案については、題名だけを見ても理解が難しいので作成しない方向とするが、この御提案をきっかけに委員内でホームページの表現(機能)を見やすくする提案が出

され、今後検討する。

①倫理規程をきれいに印刷できるよう印刷用 PDF を追加する

②規程自体が長いので、ホームページには題名のみ表示し、これをクリックすると規程の内容が見えるようにする。

7. 委員の増強に関して、どのような分野の委員の拡大が必要かなど議論を行い、具体的なアプローチを行っていくこととした。本委員会のミッションである倫理規程の浸透と継続的な改善に関して、新しい眼を入れて活動していく必要があるとの意見があった。(2日目審議)
8. 資料 100-7 により 8 月 22 日開催の電気学会第 10 回技術者倫理研修会の状況について確認した。(2日目審議)
9. 再稼働に係る調査、承認の事例集については前回委員会審議内容を踏まえ、引き続き検討中。また開示方法(学会誌への掲載の方向)について会長と相談中である旨、確認した。(2日目審議)
10. 資料 100-9 により日産自動車、神戸製鋼所の不正問題についてフリーディスカッションを行った。最近の不正問題の状況からは倫理規程「憲章 7. 組織文化の醸成」の議論が重要で、不正問題の事後の対応姿勢という観点での行動の手引の議論も必要になってくるのではないかと、との意見が出された。
11. その他
 - (1)学会声明を発出する動きがあることに関して、本委員会委員にも cc でメールが入っていたことから、議論を行った。声明を発出するにしても声明を発出する判断基準はどのようになっているのか、学会としてどのような手続きで発出に至るのか、などの意見が出され、議論を行った。議論を踏まえ、会長への対応を委員長が行うこととした。
 - (2)学術振興会の次回 WG(「未来の原子力技術」第 3 回委員会)は 12 月 6 日開催であるとの紹介があった。
12. 次回の委員会は、第 1 候補 1 月 9 日(火) 13:00～、第 2 候補は 11 日(木)、会場は東大で検討し、2 月の研究会の会場下見を兼ねる方向とする。

以上